

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい小樽稲穂		
所在地	小樽市稲穂 1 丁目 1 番 1 号		
自己評価作成日	平成22年6月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172001018&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西5丁目3番地北1条ビル 3 階
訪問調査日	平成23年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所は、職員の資格取得や研修会参加に対し協力的であり、多くの職員が向上心を持ちながら、生き活きと明るく元気に仕事をしている。ホーム内の雰囲気も良く、ご家族や知人の来訪も多い。職員は利用者、ご家族から、よくお話しをお聴きするように努めているので、信頼関係ができていと思う。今後も、利用者、ご家族から「このホームへ来て良かった」と言葉を頂けるような、ホームを目指したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設 5 年目を迎える当ホームは、小樽駅前商店街の旧手宮線沿いに位置しています。地域との交流が困難な状態の中、ホーム側の積極的な取り組みと町内会の理解をいただき、良好な関係が構築されています。家族からも利用者に寄り添うホームの姿勢に、深い信頼と感謝の言葉をいただいています。運営法人のバックアップ体制の下、職員は、利用者の「思いや希望に沿いたい」「笑顔を見たい」と、[雪灯りの路]のイベントに参加するなど、アイデアや提案を出し合い、ケアサービスに努めています。まさに、いまが旬の「グループホームふれあい小樽稲穂」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービスにおいて、理念が反映されるよう、ミーティングで話し合いをしている。	地域密着型サービスの意義を含んだ理念を作り、日々のケアサービスに努めていますが、職員全員の意見が反映された理念には至ってはおりません。	今後、職員全員で話し合いの場を持ち、職員、利用者、家族、外部の方々が、理解しやすい理念の言語化を計画しておりますので、その取り組みに期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、周辺が飲食店なので、日常的な交流は少ない。	立地上、地域との交流は困難ですが、馴染みの店舗利用、散歩中の園児との触れあい、町内会行事（雪灯りのキャンドル制作、祭り等）を通し、地域に溶け込んでいます。	利用者の笑顔が見たいと、職員は、幼稚園児、小学生、高校生との交流を考慮していますので、実行に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、積極的な活動は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行っており、幅広い立場の人に積極的に参加を呼びかけている。会議では、事業所からの報告とともに参加者から積極的に質問や意見、要望を頂き、サービスの向上に活かしている。	2ヵ月毎に開催し、家族、住民代表、包括・行政職員、消防署、薬剤師の方々をメンバーに、ホームの課題に対して建設的な意見交換が行われ、質の確保に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営や困難事例等について相談や指導を受けている。	行政職員とは、連絡協議会や行き来する機会を捉えて、情報交換を行い、さらに、ホームの課題に向けて的確な助言や提案をいただき、サービスの質向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、徹底出来ている。日中、玄関は施錠されておらず、自由な暮らしが保たれている。	契約時に身体拘束に関するホームの指針を説明し、同意書を交わしています。外部・内部研修に於いて、玄関の施錠を含め、対象となる具体的な行為の理解に努め、さらに、日常業務や会議等で、身体拘束をしないケアの周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会やミーティングなどで、学ぶ機会を持ち、虐待の防止の徹底に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、資格取得の為制度について勉強している職員はいるが、全職員が制度について理解出来ない。又現在、制度を必要とし活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては書面と口頭にて十分な説明をし、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族に日頃より意見や要望を聞く様に努め、可能な限り反映させている。	利用者の要望は、通院、入院時、居室での会話から把握し、家族からは、来訪時に意見を言い易い雰囲気作りに努め、表出された課題は、会議で解決策を協議しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と責任者間では意見の交換は行われているが、代表者が直に職員の意見や提案を聞く機会は非常に少なく、反映されているとは言えない。	職員の意見は、管理者が日常業務や会議、親睦会等で把握し、ホーム長、代表者に報告しています。個人面談の再開を計画し、運営に活かす取り組みを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	徐々にではあるが、向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めていると思う。職員個々の努力や実績等の把握は不十分な部分もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加機会は数多く提供されており、なるべく多くの職員が参加できるよう、時間調整も柔軟に対処している。又、資格取得に向けて推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、交流する機会は研修会のみだが、今年度よりグループホーム協議会で相互訪問の取り組みを実施する事になった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに向き合い、本人が安心するような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、これまでの経緯や要望等をゆっくり聴き、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から、本人、ご家族の思いや状況を把握し、必要としている支援の提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、色々教えてもらう場面も多い。又、得意分野で力を発揮してもらえよう場面を提供し、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしの出来事や気持ちを伝え、情報共有するようにしている。ご家族をホームの行事にお誘いしたり、電話でご家族と話してもらったり、一緒に本人を支え合う関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺参りや床屋など昔からの馴染みの場所へ行き続けられるよう、これまでの生活の継続性を大切に考え、支えるよう努力している。又、手紙・年賀状・電話連絡など、関係が途切れないよう支援している。	馴染みの方や場所との関係は、生活歴や会話で把握し、寺院参詣、理美容室、喫茶店利用、親族、友人・知人の訪問の受け入れや、手紙、電話等の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ミーティングなどで話し合い、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関わりが持てるよう支援している。日常生活の中で利用者同士が助け合って生活している場面は多いが、いざこざが発生した場合は職員が間に入り関係修復に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会は少ないが、退去後も、本人・ご家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や行動、表情から、思いや希望をくみ取り、職員間で情報交換をし把握に努めている。	思いや意向は、日々の関わりや、毎日の様子を詳細に記録している個別日報を参考に、職員間の気付き等で捉えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族から聴き取りするが、不十分な所もある。入居後も少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や動作から、できる力・わかる力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、担当医の意見を取り入れ介護計画に反映している。アセスメント、モニタリング、担当者会議に全職員が関わり、話し合い作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向を捉え、個別記録や医療関係者の意見を参考に、職員全員の意見や提案が反映されています。見直し時や急変時は、新たに作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報やフロア日誌に日々の様子や気づきなどを記入し、実践や介護計画の見直しに活かしている。全職員が情報を共有する体制になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な支援が出来ているとはいえない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。利用者それぞれのかかりつけ医と話し合いや情報提供し、関係向上に努めている。	希望する協力医療機関や、かかりつけ医への通院・往診支援をしています。通院・往診記録表を整備し、関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の報告や相談をしながら、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供に努めている。又、入院中は、こまめに面会に行き、病院関係者から利用者の状態を聴き取り、早期退院に向けた関係作りに努めた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの考え、状況を早い段階でご家族、病院に伝え、話し合いを行った。それぞれの立場を理解し、支援に取り組めた。	ホームの指針を書面で説明し、同意書を交わしています。AED設置や救命講習も受講し、重篤時には、利用者、家族、医療関係者と段階的に話し合う体制も整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し、職員全員が普通救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、地域住民の協力を得て避難訓練を行った。又、毎月夜間を想定した避難訓練も行っている。	消防署、地域の方々の協力をいただき、年2回、日中の訓練を行い、さらに、毎月、夜間想定 of 自主訓練を実施しています。表出された課題を、次回の訓練に活かしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した上で、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合った対応で、尊厳やプライバシーの保持に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの力に合わせ、日常的に自己決定する場面を多く作っている。どんな時も利用者の意思を尊重するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って外出や買い物も柔軟に対応し、一人ひとりのペースを大切に考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定しにくい利用者には、選択肢を提案するなど、本人の気持ちにそった支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面を考慮し、旬の食材を多く取り入れたメニューを心掛けている。調理の下準備や後片付け等、利用者それぞれが出来る事を職員と一緒にしている。	利用者の好みや、食事形態に配慮した献立に合い、一緒に食事作りを行い、食卓を共にしています。行事食や外食は一段と食が進むなど、食事は利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じて、摂取量の調整や言葉掛けによる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量に応じ、仕上げ磨きを介助したり、砂時計を活用した支援に取り組んだ。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の不安感や体調面を考慮しながら、一人ひとりに応じたパット・リハパンの使用と、使用削減に向けての支援を行った。	利用者の羞恥心や不安、体調の変化に配慮した、トイレでの排泄支援に努めています。誘導や声かけにより、排泄用品の使用が軽減されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談して下剤服用を調整し、出来るだけ自然排便を促すよう、乳製品、水分、食物繊維の摂取や運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	100%の希望には対応できていないが、入浴好きな方や足浴希望の方などには、共同生活の許容範囲内にて柔軟に対応を行っている。	週2～3回の入浴支援を実施しています。希望の入浴時間や入浴日は柔軟に対応し、清潔保持や利用者とのコミュニケーションに繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを重視した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルし、職員全員が把握出来るようにしている。特に薬の変更後は、状態観察をし、主治医に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を活かした役割、楽しみごとを支援している。（畑仕事・俳句・裁縫・習字等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	シフト体制面で可能な限り、希望に応じて買い物、散歩、お寺参り、床屋等の外出支援をしている。誕生会では、利用者の希望を聴き普段行けないような場所へ外食に行っている。	天候や体調に配慮し、利用者の意向を取り入れ、菜園作業、散策、ドライブ、馴染みの店舗利用等で、五感刺激に繋げています。さらに、外出行事等で、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じて、手元に5000円内のお小遣いを所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からの声掛けで電話を利用してもらったり、手紙の代筆、年賀状作成支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや季節の花を利用者と一緒に飾っている。	空調や清掃に配慮した共有空間には、季節の花が活けられ、壁には、利用者の作品や行事の写真、絵画が掲示され、趣のある雰囲気を醸し出しています。畳敷きのコーナーもある多目的ホールは、各ユニットの交流の場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで新聞を読んだり、TVを見たり思い思いに過ごしているが、共用スペースが狭い為、相性の悪い利用者同士の空間確保には、特に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や電気製品の持ち込みをお願いしている。配置は、本人、ご家族の意思を尊重し、危険な状態が見られれば、その都度相談しながら、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室の入口には、利用者の趣味の物や飾りが収納されているメモリアルボックスが、設置されています。居室には調度品が自由に持ち込まれ、居心地良い住まいになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた場合は、ミーティングで話し合い、安全な環境作りと自立した生活がおくれるように努めている。		